

# 領収ブリッジ

領収書のやりとりを、QRひとつで。



利用者が事前登録した宛先情報をQRコードで提示し、店舗がスキャンすることで宛名入力を標準化する。



店舗はQRスキャン後に会計金額を入力するだけで、手書きの手間や聞き間違いによるミス・手戻りを削減できる。



利用者は会計後、その場で正しく情報が記載された領収書（電子的または紙）を受け取ることができる。



導入コストを抑え、小規模な飲食店や小売店も手軽に導入できるSaaS/アプリとして設計。

QRコード提示



店舗スキャン



会計金額入力



領収書発行



※インボイス制度対応

# 解決したい課題



## 店舗のオペレーション負荷

会計時に領収書を一枚ずつ手書き・手入力。  
特に混雑時は大きな**時間的負担**と**ストレス**。  
ミスも発生しやすい。



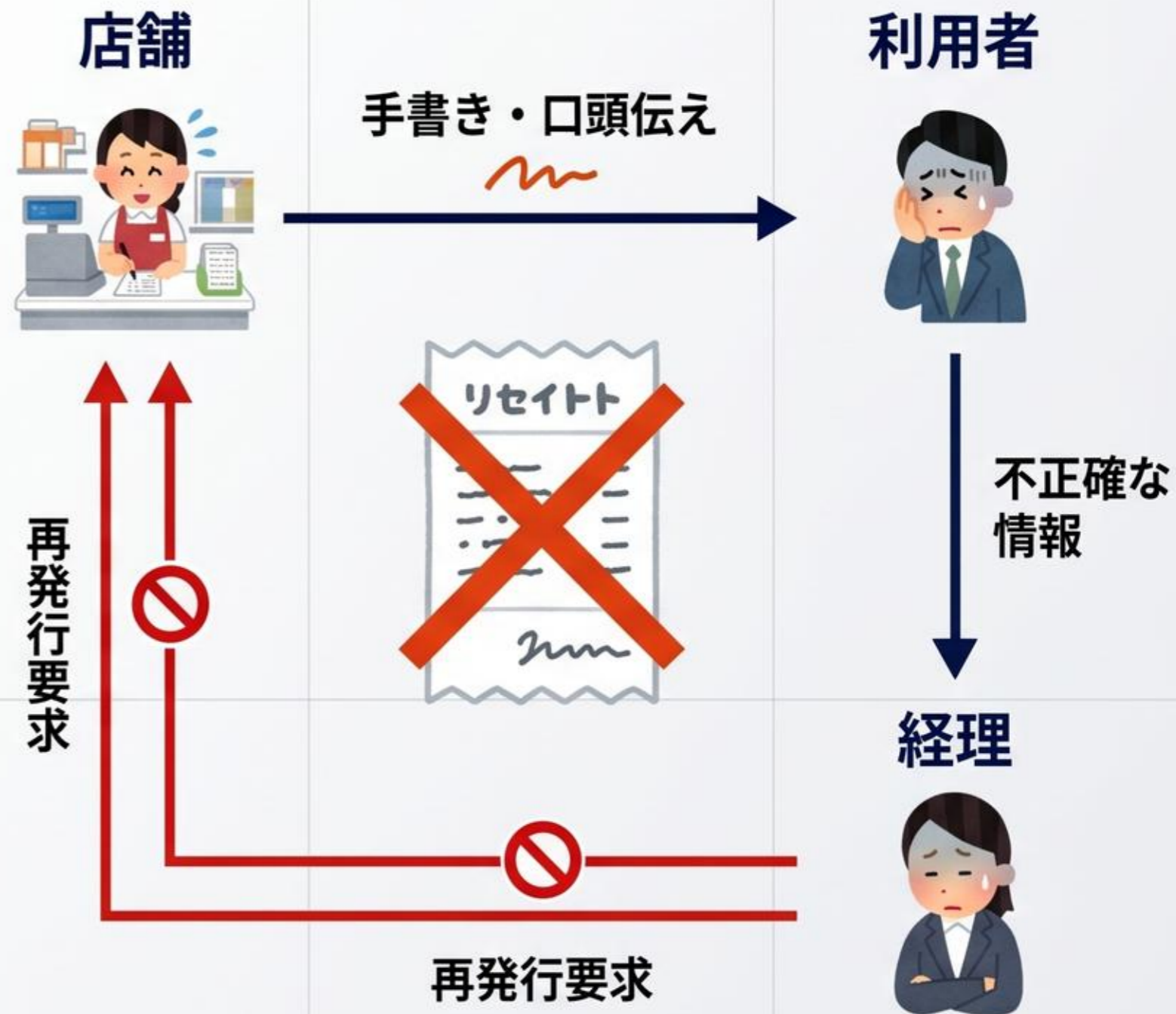
## 利用者の宛名伝えの手間

都度、法人名や住所を**口頭で正確に伝える**必要があり、**ストレス**や**聞き間違い**が発生しやすい。再発行を招く。



## ヒューマンエラーと手戻り

手書きによる**誤字**や**インボイス制度への対応漏れ**。再発行の手続きは店舗・利用者双方に負担。経理処理が滞る。



# ソリューション



利用者が事前登録した宛先情報をQRコードとして生成し、店舗側に提示することで、**手書きの手間**や**聞き取りミス**をなくす。



店舗側は提示されたQRコードをスキャンして宛先を自動取得し、**会計情報の入力**に集中できるため、**レジでの滞留時間を短縮**する。



利用者はその場で**正確な宛名と金額**が記載された**領収書**を受け取ることができ、会社への**経費申請時の不備**や**差し戻し**を大幅に**削減**できる。

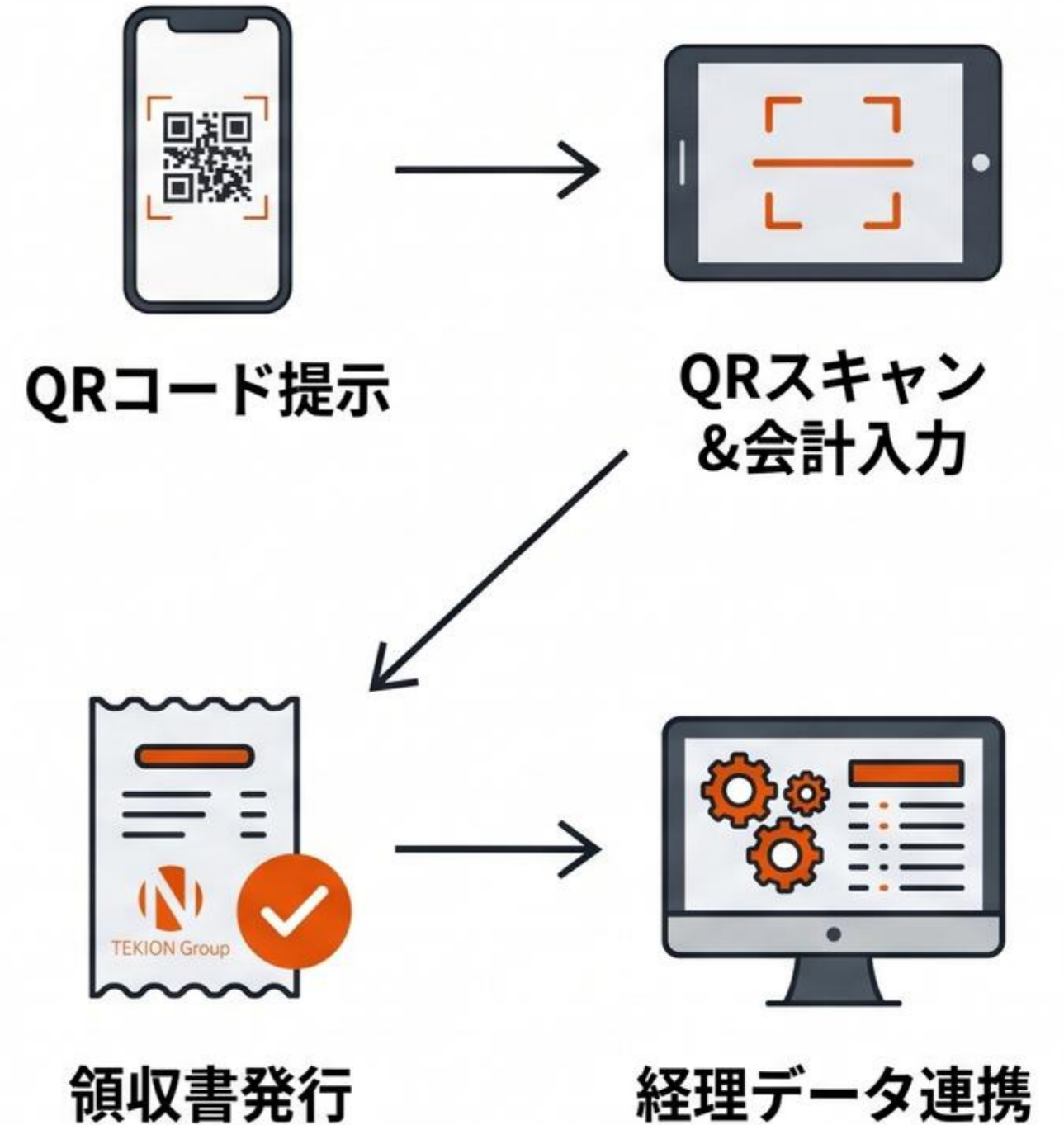


**小規模店舗**でも、**タブレット**と本サービスを導入するだけで簡単に運用を開始でき、**デジタル化**による**効率化**の恩恵を受けられる。



**インボイス制度**や**電帳法**などの法令遵守を前提とした設計になっており、**経理担当者の業務負担を増やすことなくデジタル化**を進められる。

## 領収書のやりとりフロー



# 利用フロー

1

## 【事前登録】



利用者は、会社名などの宛先情報を事前に「領収ブリッジ」アプリに登録します。

2

## 【QR提示】



会計時に、利用者は登録済みの宛先情報をQRコードとして提示します。

3

## 【店舗入力】



店舗スタッフはQRをスキャンし、利用者の宛先情報を確認して会計金額を入力します。

4

## 【発行・受取】



店舗端末から正しい宛名の領収書が発行され、利用者はその場で受け取ります。

利用者

## 1 事前登録

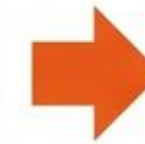


## 2 QR提示



店舗

## 3 店舗入力



## 4 発行・受取



# MVP範囲

## 領収ブリッジ MVP の主要機能



### 利用者側機能

利用者は、アプリ内で領収書の宛先情報を事前に登録し、会計時にQRコードを表示することで宛先を店舗へ渡す。



### 店舗側機能

店舗スタッフは、利用者が提示したQRコードを専用アプリでスキャンし、会計金額を入力することで領収書を生成する。



### 共通プラットフォーム

システムは、入力された情報に基づき電子領収書のPDFを自動生成し、利用者と店舗双方が閲覧およびメール送信できるようにする。



### インボイス制度対応

サービス開始当初より、インボイス制度に対応するため、店舗の適格請求書発行事業者番号の登録・管理機能を実装する。



# 価値提案



## 宛名受け渡しのミスを防止

利用者が事前登録した宛先情報をQRで提示することで、手書きの手間や聞き間違いによるミスを防ぎ、正確な領収書発行が完了します。



## 会計業務の効率化と スピードアップ

店舗は会計情報の入力に集中できるため、会計時間の短縮とオペレーションの効率化が実現され、顧客をお待たせしません。



## インボイス制度対応の堅牢性

インボイス制度への対応を見据えて設計されており、ミスや手戻りを減らすことで、正確な経理処理と法令遵守を両立します。



## 小規模店舗のDX推進をサポート

小規模な飲食・小売店舗でも導入しやすい設計により、手作業での領収書発行をDX化し、業務負荷を軽減します。

# リスクと対応



## データセキュリティに関する懸念

ユーザーの宛先情報(企業名、適格請求書発行事業者番号など)が外部に漏洩したり、店舗が会計以外の目的で利用したりする可能性。

### 強固なセキュリティ対策

すべてのデータ通信を暗号化し、ISO 27001等のセキュリティ基準に準拠した強固なデータ管理体制を構築。店舗側のデータアクセス権限を会計入力と領収書発行に限定し、目的外利用を防ぐ。



## 入力ミスの発生



店舗スタッフの誤入力により、金額や日付が誤った領収書が発行され、利用者の経理処理に支障が出る可能性。

### リアルタイムのエラーチェック



会計入力画面にリアルタイムのエラーチェック機能を搭載し、異常な金額や不正な日付の入力を警告。発行前に利用者にプレビュー確認を求め、双方の合意形成を促進する。



## 店舗オペレーションへの負荷

小規模店舗や繁忙期の店舗において、QRスキャンと会計情報の入力が追加負担となり、導入が敬遠される、またはオペレーションが遅延する可能性。

### シンプルで直感的なUI

スマートフォンアプリのUIを極限までシンプルにし、2タップ以内で入力完了できる設計。導入店舗向けの簡易マニュアルやスターターキットを提供し、スムーズな運用を支援する。



## インボイス制度への対応

制度の改正により、必要な要件を満たさなくなる、または対応が遅れるリスク。

### 継続的な法令モニタリング

税理士法人と連携し、税制改正の動向を常時モニタリング。制度変更が決定した時点で、アジャイルにエシズムシステムアップデートを実施し、常に法令に準拠した形式で領収書を発行できる体制を維持する。



# 次の一歩



実証実験の成功を踏まえ、2025年Q3までに法人向けサービス（SaaS）および利用者向けモバイルアプリの正式リリースを完了し、市場導入を加速する。



飲食・小売・宿泊業界の主要POSベンダーおよび会計ソフト事業者との戦略的API連携を推進し、エコシステムを構築してシームレスな体験を実現する。



インボイス制度および改正電子帳簿保存法に対応した新機能をQ2中に実装し、法令に完全準拠した堅牢な会計データ・プラットフォームを提供する。

